

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍での行動制限で、地域との交流も制限され、保育園園児との世代間交流や地域行事での集まりなど、ほとんどの行事が約3年間途切れていた。通常の生活が戻りつつある今、積極的に地域との交流を進めていきたい。	運営推進会議の委員である区長、老人会長、消防団長、保育園園長と連携し、地域の方々との交流の場へ管理者自ら出向き、積極的に対話することで、施設運営の理解に繋げていきたい。	①村が主催する『オレンジカフェ』や『認知症養成講座』などに職員が出向き、交流をする。 ②保育園への訪問(運動会や発表会など)、保育園からの訪問(七夕やクリスマスなど)の世代間交流を実施する。 ③消防団と一緒にいる避難訓練の実施。	6ヶ月
2	11	コロナ禍の行動制限は、家族との交流も制限され、自由に面会や外出が出来ていなかった。また、広報に掲載する写真の家族同意が無かったため、定期的な発行が行えず、家族に向けた情報発信が不足していた。	家族の面会はコロナ前と同様に戻し、施設内での面会を勧めるとともに、家族へ広報での情報発信やイベントなどへの参加も行っていきたい。	①広報担当を確立し、毎月広報誌を発行、ご家族へ発送し、施設内の行事等情報発信することで広報の充実を図る。 ②イベントへの参加や運営推進会議への出席など積極的に呼びかけ、家族との交流を図っていく。	6ヶ月
3	11	コロナ禍では3密を避けるため、極力会議の回数を少なく、短時間で行うようにしていたが、委員会の活動が思うように行えず、職員の士気も低下していた。	縮小していた委員会活動を充実させるために、委員会メンバー構成の見直しを行い、月に1度の会議も実施し、中身の濃い活用を行っていきたい。	①委員会メンバー構成の見直しを行い、委員会活動の充実を図る。 ②毎月第一月曜日を委員会会議の日と決め、スタッフの士気の向上に努める。	6ヶ月
4	40	普段の生活はご利用者主体で、ゆったりとした時間が流れているが、食事になると以前からの習慣からか、職員主体になってしまう場面が多い。ご利用者のペースに合わせ、もう少しゆっくりとした時間の使い方をしていきたい。	パーソン・センタード・ケアの理念の基、ご利用者が中心となるような過ごし方を、更に向上させていきたい。	①食時に関しては、外部評価の結果を基に、基本に沿って、食事の提供時間、下膳のタイミング、口腔ケアや臥床時間を統一することで、急がない(職員主体にならない)習慣を徹底していきたい。 ②食事以外でも、ご利用者のペースに合わせ、ゆっくりと生活して頂けるよう援助していく。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。